

第2回 県政知事懇談

湯崎英彦の宝さがし —未来チャレンジ・トーク

と き 平成23年7月24日(日)

ところ JA広島北部千代田支店

広 島 県

目 次 頁

開 会	1
歓迎催事	1
知事挨拶	1
紹 介	3
ビジョン発表	3
事例発表	9
意見交換	21
挑戦発表	25
閉 会	31

開 会

(司 会 (八幡))

大変長らくお待たせいたしました。

ただいまから「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を開催いたします。

私は、広島県広報課の八幡と申します。どうかよろしくお願いいたします。

なお、広島県では、省エネルギーを進めるため、カジュアル・クールビズを実施し、県が主催する行事などには軽装で臨むことといたしておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

歓迎催事

(司 会)

それでは、県政知事懇談の初めに当たり、地元北広島町の町立千代田中学校の皆さんが、御参加の皆さんへの歓迎の太鼓と踊りを披露します。それでは、北広島町立千代田中学校ソーラン隊の皆さん、よろしくお願いいたします。

(千代田中学校生徒)

今日はお忙しい中、北広島町においでくださり、ありがとうございます。今から千代田中ソーランで歓迎します。お願いします。

【ソーラン隊による太鼓と踊りの歓迎】

(司 会)

生徒の皆さん、本当にありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いいたします。

知事挨拶

(司 会)

それでは、湯崎英彦広島県知事が御挨拶を申し上げます。

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。まず、北広島町立千代田中学校のソーラン隊の皆さん、太鼓と踊りの唄で歓迎をしていただきまして、どうもありがとうございました。皆さんに御覧いただいたとおりで、若さとすばらしい演技で盛り上げていただきました。本当にありがとうございました。

今日は日曜日にもかかわらず、この県政知事懇談会に多数の皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

これから「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」という形で100分間おつき合いをお願いしたいと思います。

御存じの方も多いと思うのですが、昨年度は各市町、広島県内に23ございますけれども、回らせていただきまして、この県政知事懇談をやってまいりました。昨年は、私の事実上就任1年目ということで、仕込みと基盤づくりの年と位置付けて、様々な計画をつくってきたところですが、その中でも10年間の総合計画である「ひろしま未来チャレンジビジョン」というものを策定したところでございます。今年はこれを実施する年として、このビジョンを県民の皆様にも御理解いただきたいと思っております、今日はその御紹介もさせていただきたいと思っております。

さらに、この未来チャレンジビジョンの中でテーマとして挙げているのですが、広島県を、本当に形作って、また、その未来を決めていくのは県民の皆様お一人お一人である。その皆様、お一人お一人がいろいろな挑戦をしていくということが、新しい広島県を創っていくというふうに思っております。

今日は、安芸高田市、安芸太田町、そして北広島町におきまして、地域で挑戦をされている3人の皆様においでいただきまして、そのお話をお伺いしたいと思っております。

そして、会場の皆様全員で、将来にわたって広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県、その実現に向けて一緒に考えていきたいと思っております。

先ほど申し上げましたように、去年は各市町それぞれやったのですが、今年は8地域に分けて、それぞれの地域で順次開催しております。今日は実は第2回目となるものであります。

今日のこの会がお集まりの皆様それぞれの個人、あるいはそれぞれの会社であるとか、あるいは地域の団体であるとか、その共通する関心のグループや団体、それぞれの場での新しい挑戦というものにつながっていくと大変ありがたいと思っております。

後ほど意見交換もございますので、皆様の積極的な御質問と御意見をいただければ幸いに存じます。少々長くなりますけれども、本日はよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。

(司 会)

湯崎知事、ありがとうございました。湯崎知事、壇上のお席にお座りください。

紹 介

(司 会)

それでは、本日の事例発表者の皆様を御紹介いたします。発表者の皆さんは壇上にお上がりください。

それでは発表者の皆様を御紹介いたします。

初めに、安芸高田市の神楽門前湯治村代表取締役の溝本郁夫様です。

続いて、安芸太田町の安芸太田町観光協会常務理事の吉田秀政様です。

続いて、北広島町で民宿「あるペン屋」を運営され、海外や都市部の子どもの体験学習の受入れなどをされている杉原幸成様です。

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様は壇上のお席にお座りください。後ほど事例発表をよろしく願います。

ビジョン発表

(司 会)

それでは、湯崎英彦広島県知事が「ひろしま未来チャレンジビジョン」について発表を行います。湯崎知事、よろしく願います。

(知 事)

よろしく願います。先ほど少しお話しさせていただきました「ひろしま未来チャレンジビジョン」、これはこの先10年間の総合計画になるものですが、その御紹介をさせていただきたいと思います。

まず、この計画の位置付けですが、今、申し上げましたように10年間の総合計画です。ただ、総合計画と言いましても、いわゆる「計画」とはちょっと違いまして、10年後にこんな広島県になっていたらいいな、こんな広島県を目指していきたいなというビジョンというか絵姿、そういうものを描いております。そういうことでビジョンという名前を付けております。

最初に、このビジョンの基本理念でありますけれども、ここにございますように、将来にわたって、広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県の実現を掲げております。これだけ聞くと、当たりの前のことが書いてあると思われるかもしれませんが、しかし、後でも出てくるのですけれども、実際に現状はどうかと言いますと、なかなかこの広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思っただけにいるという状況ではないのではないかと考えております。

それは、どういうことかと言いますと、特に人口の動きというのを見ますと、大きく分けて、人口の増減というのは、転入と転出の差です。引っ越していかれる方と、引っ越して入ってこられる方、これを社会増とか社会減とか言うわけですがけれども、この社会増減というのを見ますと、実は広島県は社会減という状況にあるということです。特に20代のところから顕著になってきます。これはどういうことかと言いますと、まず、大学を中心として、高等教育を受けるときに広島県から出て行くという状況がございます。これは昔からそうなのでありますが、昔はいったん大学で広島県から外に出た後、30歳ぐらいになると戻ってくる。つまり、30歳以上になると社会増が起きるという現象でした。それが近年は、大学で出て、さらに就職でも出て、そこからずっと出ていく。つまり、20代から大体60代ぐらいまでの間、皆さん広島県から出て行くという状況が起きております。

もし、生まれ、育ち、住み、働いて良かったと提供いただけているのであれば、こういった人口の社会減という現象がこのように顕著に進んでいくということはないだろうと思っております。もちろん広島に残って、広島で働いて暮らしている方々は、皆さん、広島のことを大好きで、良かったと提供いただいていると思うのですが、そう思っていない方がかなりの数いらっしゃるということでありますので、是非私としては、ここに書いてあるとおり、本当に広島とかかわってよかったと提供いただく。それによって、広島にいろいろな方が来ていただき、集まっていただく。そんな広島県にしたいと思っております。

今のこの状況、例えば人口社会減であるという状況、あるいはその他のいろいろな産業上の問題であるとか、あるいは農業などいろいろな課題がありますけれども、特に何の手立てもなくそのまま進んでいくと、必ずしも今、広島県が非常に明るい状況にあるというふうには見えないというのが現実であります。これを何とかしていろいろな対策を打って、皆が広島とかかわってよかったと思える広島県を目指していきたいと思っております。

その中でも、特に考えていく上で重要となってくる大きな二つのポイントがあると思っております。

一つは、人口の減少。それから少子高齢化。今の人口減少というのは、先ほどの社会減と併せて、自然減というものも非常に大きな問題になってきます。自然減というのは、生まれてくる赤ちゃんの数と、それから亡くなる方の差し引きですね。これが生まれてくる赤ちゃんの方が多ければ人口は増えていく。亡くなる方が多ければ、人口は減っていくということになりますけれども、これが社会減と同じように、これから人口の自然減というものが非常に大きくなっていく。つまり、亡くなる方のほうが多くなっていくということなのでありますが、そういった問題。その分、子どもが少なくなってくる。

それから、もう一つがグローバル化という話でありますけれども、グローバル化というのも、これも後ほど詳しくお話しますが、広島県、それから日本は、過去何度かグローバル化の波に洗われているわけですが、今はまた非常に重要なグローバル化が進ん

でいると思っております、この二つが非常に重要な変化であろうと思っております。

この人口減少というのを見てみますと、今の社会減、それから自然減、両方併せまして、平成 47 年、今から 24 年後ぐらいにどれぐらい減るかと言いますと、これはちょっと小さいのでなかなか御覧いただけないと思えますけれども、人口は約 240 万人になってまいります。今は幾らかと言うと、平成 22 年ベースで 284 万人です。ピークは平成 10 年だったのですが、288 万人いました。ということは、この 288 万人のピークから比べますと 240 万人ですから、約 50 万人、人口が広島県から減っていくという見込みになっているわけがあります。

今日は北広島町、安芸高田、それから安芸太田の各市と町の皆さんに集まっておりますけれども、この 50 万人という数がどれぐらいの大きさかというのは、各市町の人口と比べていただいても、非常に大きいものであるということがお分かりだと思います。ちなみに、福山市が大体 50 万人ぐらいですから、この 20 数年の間に、広島県から福山市がまるまる一個分なくなってしまうというような人口の減少がこれから起きていくわけがあります。

それから、もう一つグローバル化というものでありますけれども、これまで我々、日本人が受け止めてきたグローバル化というのは、もちろん、最初に明治維新のときに開国をし、世界とおつき合いをするようになった。これは非常に大きな出来事だったのです。これもグローバル化の一環だったわけですが、このときに起きたのは、主に欧米の国々とどういふふうにつき合っていくかということが大きな課題であったわけです。その原因は何かと言うと、去年もちょうど龍馬伝とかやっていたから皆さんも御覧になったと思えますけれども、ペリー、アメリカが来て、黒船が来て、それで国を開いた。そのときにイギリスもフランスもロシアもみんなやってきた。ドイツもやってきた。そのグローバル化であったわけです。その大きな流れがずっと戦後まで続いて、日本というのは、いかにこういった欧米の諸国と競争して、あるいは、その社会の中に入っていくかというのが課題で、そこに向けて一生懸命努力をしてきたわけです。

ところが、今は、ここにありますように、アジアの国というのが非常に大きく伸びているわけでありまして。アジアだけではなくて、ブラジルであるとか、アフリカの一部の国々、そういう新興国と言われる国々が非常に台頭してきているわけでありまして。これは、逆に、こういった国々が、従来の欧米や日本、いわゆる先進国と言われる国々がつくってきた社会に対して参入をしているわけです。今度は、我々は受け身のグローバル化になってしまっていて、典型的なのは例えば中国が北海道の水源地を買って大きく問題意識が起きておりますけれども、そういったことがこれからどんどん起きていくわけでありまして。こういった事態にどう対処していくかということが非常に大きな課題になります。

実は、先ほど明治維新と申し上げましたけれども、明治維新のときには世界の列強と渡りあうために日本は開国をしました。そのときのグローバル化への対応というのは、何を

したかと言うと、まさに江戸幕府を明治政府に転換したわけです。例えば廃藩置県であるとか、あるいは、すごく大きかったと思うのは、やはり士農工商という身分制度がなくなったことでもあります。これは、本当に天地をひっくり返すような改革というのをこのときにやったわけであります。根本は何かと言うと、このグローバル化に対応するためにそういう新しい仕組み、グローバル化した世界に対して付いていけるような仕組みを新しくつくったということでもあります。

ところが、今、我々が迎えているのは、先ほどのようなグローバル化、新しい国々がやってきて、日本の土地を買ってしまうとか、銀座で一番たくさん買い物をしているのは中国人であるとか、そういったまさにグローバル化、これまで以上のグローバル化、もっと激しい競争が起きていて、グローバル化だけではなくて、先ほど申し上げた人口減少、これが同時に起きている。日本は事実上、これまで人口減少を経験をしたことがありません。長い時代のトレンドとして、人口が減っていくというのは初めての経験であります。つまり、これまで経験していない、新しいことを一遍に経験しようとしているわけです。

ということは、過去の明治維新に起きた以上の改革というのを本当は進めていかなければならないというのが現状であると考えたほうがいいと思っております。

それになかなかついていけないというのが大きな課題ではないかと思いますが、そういった状況乗り越えていくためには、やはり挑戦をしていかなければいけない。挑戦をしていくというのは何かと言うと、従来のやり方をそのまま続けるということではなくて、何か新しい方法、思い切ったことをやっていくということでもあります。それはどういう意味かといいますと、新しく従来やり方ではない、しかも難しいこと、でもうまくいけば、非常にいい結果が出るようなそういったことをやっていかなければいけないということでもありますけれども、同時にそれは難しいことでもありますし、新しいことでやり方が分からないことがたくさんありますから、失敗するかもしれないということです。でも、この失敗をおそれていては新しいものを生むことはできない。明治維新のときに、もし、この士農工商、身分制度をひっくり返すと、本当に天地がひっくり返ってしまうから、この士農工商の身分制度を変えるのをやめようとなっていたら、今はどうなっていたか、ということです。坂本龍馬は、この身分制度というのを取っ払おうというふうに考えたわけですが、いや、これは過激過ぎるし、新しいし、誰もやり方を知らないし、失敗するかもしれないからやめようじゃないかというふうにもし言っていたら、日本は今ごろひよっとするとイギリスの植民地だったかもしれないということです。

そういう事態を避けるためには、我々自身が新しいこと、難しいこと、従来でやっていないことに挑戦をしていかなければいけない。しかも、それは失敗するかもしれないけれども、一つ一つの失敗に怯んではいけません。大きな流れの中で新しいことに挑戦をして、それを成功させていかなければいけないということであろうと思います。

そのために、こういったキーワードをベースにしたいろいろな挑戦をやっていこうと考えているわけであります。広島県としては四つの分野、「経済成長」、「豊かな地域づくり」、「安心な暮らしづくり」、そして「人づくり」、特にこの「新しい経済成長」という部分と「人づくり」という部分に当面の力点を置いて政策を組み立てようとしております。

「人づくり」であれば、10年後、どういうふうにしていきたいか。これからの本県を内外から支える人材を育成して、人を引きつける就労機会の創出など、すべての県民が輝く環境を整備していく。それによって人が集まり、育ち、生き生きと活躍をしている。それぞれ、教育で見ますと、子どもたちが将来にわたってたくましく生きる力を持っている。あるいは、学力ということが非常に大きな問題になっていますけれども、学力を超えて、社会の中で生きていく力、これをしっかり身に付けていくということが重要であるということでもあります。あるいは、グローバルな感覚を持った人材が育って、企業や地域社会の中で活躍している。グローバルというと、例えば商社であるとか、大企業で働いているというようなイメージがあるかもしれませんが、そういうことではなくて、それぞれの地域で、そういうグローバルな感覚、もっと言うと、グローバルな感覚というのは、要するに日本人以外の方と普通につき合える。それがグローバルということなのです。ですから、これから例えばスキー場などで海外のお客様を呼んでくる。台湾のお客様がやってくる。そのときに、お客様が外国人だからちょっと困るなというのではだめだということです。地域においてもしっかりと、外国人の方が来ても、普通にお客さんとしておもてなしをして、満足して帰っていただく。そういうことができるようになっていくということが重要なわけであります。

そのために、実は広島県では、今、足元でできることをやっております。留学生を倍増するであるとか、あるいは県立高校のすべての高校で、海外の学校と姉妹提携を結ぶということをやっています。また、交換留学、あるいは、中小企業の方がより高度なスキルを身に付けるため、海外の学校に行って研修をするのを年間最大400万円補助しますよと、そういったことを進めています。

それから「経済成長」、先ほど申し上げたように、新しい挑戦を行って、新しい付加価値をつくっていくということがこれから求められています。広島県はものづくりというものが非常に強いわけですがけれども、このものづくりをベースにして新しい産業をつくっていこう。あるいは、農林水産業についても、自立した産業として確立をしていく。生産から販売まで一体的な取組が活発に行われて、若者が就職できるような状況になっていく。こういうふうになりたいと思っています。あるいは、観光を新たな産業の柱と位置付けて、盛んに海外を含めたお客様がやってくるといったようなことを目指しております。

そのために今いろいろなことをやっております。「ひろしまイノベーション推進機構」、よくファンドというふうな呼ばれ方をしましたけれども、要するに、お金、あるいは人材あるいは経営ノウハウと一緒に、総合的に、中小・中堅企業に支援しますという仕組みで

す。

あるいは、広島県は自動車だとか造船とか企業がたくさん集まっていますけれども、新しいそういった産業の集積をつくっていくといったようなことを目指しております。

それから「安心な暮らしづくり」、医療・福祉・子育てなど、県民生活に直結した課題について、社会全体で取り組んで、県民の皆さんが安心できる姿を目指していきたいと思っております。特に医療では、がん対策というものを進めていきたいと思っておりますし、先ほどの少子高齢化という問題もありますので、「子育てするなら広島県で」というふうに選ばれる環境を整えていきたいと思っております。

そのための、がん対策の一つの柱になる放射線の治療センターを広島につくるかどうか、あるいは、地域でお医者様が足りなくなっていますので、そのお医者さんの配置を行っていく新しい組織をつくっていくとか、あるいは地域で緊急のときにヘリコプターで急送するということができるドクターヘリを導入したりとか、そういうことを進めております。

最後が「豊かな地域づくり」ですけれども、それぞれの地域が誇りを持って、そして、また、自らの創意工夫で多様な地域、そして住みやすく、個性のある豊かな地域になっていくという状況を目指しております。それぞれ、中山間地域あるいは都市において対応を進めたいと考えておりますが、例えばこの二つです。「瀬戸内 海の道構想」、これは島嶼部でそういった豊かな地域をつくる取組でありますし、「中山間地域観光メニュー」、これは山間部も含めた、例えば昨年八幡高原 191 スキー場でスノーボードフェスティバルというのをやらせていただきましたけれども、この地域の特徴である雪を活用した活性化であるとか、そういったことに取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、それぞれの地域が持っている強みを生かして、そして、挑戦を行う。そしてイノベーション、これは新しい付加価値を生んでいくということですが、新しい付加価値を生んでいく。そういった活動を行って広島県を変えていきたい。

そして、最後に非常に重要なことは、それを実際に変えていく力があるのは県民の皆さん一人ひとりなのです。行政がどんなにやっても、経済活動をするわけではありません。例えば医療は、県庁、あるいは市役所、あるいは町役場が医療サービスを提供するわけではないですね。福祉もそうなのです。そういったそれぞれの活動の担い手が新しいことに取り組んでいく。そして、新しい付加価値を生んでいく。あるいは、新しいやり方でいいサービスを提供する。それが本当の広島県を変えていくということであります。行政としては、それを後押ししていく。いろいろな挑戦をするときに、困ったこと、あるいは一歩踏みだそうとするんだけど踏み出せない。そういったときに後押しをして、支えて、そして全体として広島県が変わっていく。そういった役割分担で進めていきたいと考えております。みんなで協力して広島県の新しい未来づくりに取り組んでいきたいと思っておりますので、これからもなにとぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

(司 会)

湯崎知事，ありがとうございます。広島で生まれ，育ち，住み，働いて良かったと心から思える広島県を実現するため，一人ひとりの県民が挑戦することが大事であるということがよく分かりました。私ども県職員も，皆様とともに全力で挑戦していきたいと思しますので，どうかよろしく願いいたします。

なお，湯崎知事への質問など意見交換は，次の事例発表が終了した後に併せて行いたいと思しますので，どうかよろしく願いいたします。

事例発表

(司 会)

それでは，これから事例発表に移りたいと思います。湯崎知事にはこの事例発表のコーディネーターを務めていただきたいと思います。湯崎知事，どうぞよろしく願いいたします。

(知 事)

それでは，改めてよろしく願いいたします。今日，事例発表をいただく3名の方は，それぞれ今日3市町からいらっしゃっていただいておりますけれども，それぞれの地域で積極的な活動を行って，挑戦に取り組んでいらっしゃる方々であります。

最初に，安芸高田市の溝本さんをお願いしたいと思います。溝本さんの御紹介をさせていただきますと，神楽門前湯治村の代表取締役でいらっしゃいまして，神楽や温泉を活用した観光振興などの取組を通じて，「豊かな地域づくり」に取り組んでいただいております。

また，来週に，実は安芸高田市において，第一回高校生の神楽甲子園が行われる予定になっておりますが，その成功に向けて，現在御尽力をされているということでございます。

発表のテーマは，「全国に発信 ひろしま神楽の魅力！神楽門前湯治村の取組」であります。溝本さん，よろしく願いいたします。

(溝本 (事例発表者))

皆さん，こんにちは。御紹介いただきました溝本でございます。どうかよろしく願いしたいと思います。

神楽を中心とした取組というお話をさせていただくわけですが，神楽ということになりますと，私ども安芸高田市だけではなくて，ここ北広島町，あるいは安芸太田町，いずれ

もとても神楽の盛んな地域でございます。したがって、話をさせてもらうのが恐縮で、やりにくいということもございますが、どうかお許しをいただきたいと思ひますし、与えられた時間が非常に短いものですから、少し駆け足でお話をさせていただくようになりますと思ひます。どうか御容赦をいただきたいと思ひます。

まず、私どもの神楽、もう御存じいただいていると思ひますが、この地方に伝わる神楽は、広島県には幾つかの系統の神楽があると言われてはいますが、芸北神楽という神楽に属します。中でも、戦後創作された演目、これを戦前よりあった演目と比較して新舞というふうに言うようになりました。現在では、旧舞、新舞という言い方が非常にオーソドックスになっておりまして、その新舞発祥の地が私どもの安芸高田市でございます。

その安芸高田市の神楽の特徴は、もちろん芸北神楽共通の部分もございまして、いわゆる高田八調子というふうに言ひまして、演劇性が高く、非常にスピード感にあふれることがその特徴でございます。最近ではDVDとか神楽団の交流も非常に盛んになってはいますので、それぞれの神楽団の個性が薄れつつあるといういろいろな指摘もありますが、高田舞という他に見られない舞法がございまして、もちろん旧舞も残っておりまして、古い伝統を、高田八調子で旧舞を舞うという神楽団もございまして。

もう一つ大事なことは、神楽というのは、神楽団だけのことでなくて、やはり神楽を通して地域的な結束力が非常に高いということでありまして、神楽は私ども住民の誇りであり自慢の一つでございます。それが非常に大事なことでございまして。私ども神楽門前湯治村には神楽ドームという、要は専用施設がございまして。ここに10年以上と書いてはございますが、開業からもう13年が経ちます。13年間ずっと年間を通して上演をしてきたという実績がございまして。そこらを含めまして、神楽はまさに町の元気の源であるということが言えるのではないかとと思ひます。

もう少し神楽のことを詳しくお話しますと、安芸高田市には現在22の神楽団がございまして。内訳は御覧のようになってはおります。この神楽をいろいろな形で支えてはおりまして、例えば子ども神楽でありますとか、先ほど知事からお話のありました高校生の神楽でありますとか、神社での秋祭り、そして、地域の様々な行事での神楽、こういったことが神楽団を支え、一体になって取り組んでいるということでございます。つまり、全員が神楽の守り人ということになるわけですね。22も神楽団があれば、団員数は500名以上でございまして、子ども神楽や高校生神楽、そして、神楽団のOBの皆様を含めれば、1,000人とも、2,000人ともいう人々が神楽に何らかの形でかかわり、携わっている。こういうことになるのではないかとと思ひます。

私ども神楽門前湯治村の事業は、神楽はもちろんでございまして、先ほど御紹介いただきましたように、お湯よし、宿よし、神楽よしと、いわば三拍子そろった機能を有してはおります。週末は神楽を楽しむエンターテイメント空間としてお楽しみいただけますし、また、普段は静かな湯治場ということで、神楽のないときのほうがむしろいいというお客さ

人もいらっしやいます。様々な地域のよさを御用意させていただいております。そういった様々な取組があり、お楽しみ方ができるということでございます。

神楽門前湯治村は平成10年にオープンいたしまして、現在14年目に入っておりますが、大体入り込みのお客様が年間15万人前後でございます。当然多くの方が訪れていただきますと、そこにはいろいろな活性化といいますか、波及効果がございます。代表的なことでここに何点かありますけれども、雇用の発生でありますとか、地産地消の推進でありますとか、住民の皆さんも、これは神楽団の人だけではありませんが、参加による生きがい創造であります。例えば女性会の皆さんが、毎週神楽の公演には、うどんのバザーコーナーを運営されるとか、そういった参加もでございます。当然のことながら経済波及効果がございます。そして、交流と、神楽団の皆さんも熱を帯びてきて、練習に力が入る。こういうことだろうと思います。

今日は、魅力を発信するための新たな神楽の取組ということで幾つか紹介させていただきたいと思います。今年から安芸高田市行政と連携をして取り組んでいる事業でございます。

まず第一点目は、先ほど御説明いたしましたように、安芸高田市22全神楽団による定期公演の充実でございます。金・土・日・祝日、いつでも神楽が見れるということで、今年4月から新たな年間スケジュールを組んでいただきまして、年間約150日、365日のうちの150日を私どもの施設で公演をしていただく。22の神楽団が当番で公演をしていただくということになっております。もちろんそれ以外の日でも御希望があれば貸切公演にも対応させていただくということで取り組んでおります。

昨年まではこの半分以下の公演回数でございましたので、非常に画期的な取組が始まったということになります。一つのねらいといたしましては、全国から神楽を御覧に来ていただきたいということで、いつでも気軽に、冬場は昨年まではオフでしたけれども、今年は冬場もやりますので、年中いつでもどうぞお越しください、という環境づくりでございます。

二点目が、先ほど知事からも御紹介のありました、今度の土曜日でございますが、第一回高校生の神楽甲子園を開催する運びとなっております。県内外の高校生の交流の場として、全国に神楽の情報を発信していきたいと、こういうねらいでございます。今年は、広島県と島根県を中心とした高校生の神楽が中心でございます。賛同校には、鳥取県の高校も加わっていただいております。来年以降、第二回、第三回と続けてやっていきたいと思っておりますし、できれば全国に輪を広げていきたいと思っております。

それから、三点目に、地域外に出て行って出張公演をする。こういう新たな取組も始めつつあるところでございます。例えば関東圏でございますが、来年の1月には第一回目の東京公演を開催することで、既に内定をいたしております。そういったように全国に私どもの神楽の魅力を発信する。そういう取組をこれから行っていこうということでございます。

す。

以上、今日は三つのことを御紹介しました。

最後になりますけれども、我々、神楽はふるさと自慢でございます。これは、実は単に安芸高田市の魅力を発信すると、そういうことだけではありません。広島県に新しい魅力をプラスして、情報発信をしたいということでございます。我々のふるさと自慢は、広島県のふるさと自慢でもあるというもとので、これから全国に魅力を発信していきたい。

ちょっと考えましたのが、世界文化遺産、お隣島根県の石見銀山、そして宮島、原爆ドームと、この三つをめぐるトラアングルの真ん中に安芸高田市は位置しております。それぞれ1時間から1時間半ぐらいの距離にございまして、そういう意味では、広島の魅力は中山間にもあるんだということで、先ほどの知事のビジョンに合致しているのではないかと思います。

最後に、実はこの間、あるお客様が東京から何人かのお客様を連れてこられまして、私どものところに泊まっていただいて、神楽を御覧になっていただいたのですが、そのお客様は、宮島も原爆ドームも行って、石見銀山も行って、私どものところに泊まっていただきました。神楽を御覧になっていただいたわけですが、そのお客様を接待された方が聞かれたら、どこが一番よかったかと言われたら神楽が一番よかったというふうにその東京のお客様はお答えになっていたということで、我々も非常に元気になりまして、世界遺産は大変ですけれども、そこに匹敵するぐらいの魅力がこの中山間、安芸高田市はもちろんです。北広島や安芸太田にもあるということ、これから力を入れて情報発信をしていきたいと思っております。

時間が大体まいったと思いますが、以上で私の神楽を全国に発信する取組としての御紹介とさせていただきます。ありがとうございました。

(知 事)

どうもありがとうございました。神楽甲子園ですね。神楽マツダスタジアムというふうに名前をつけるわけにはいかないかなと思うのですけれども、それだと意味が分からないかもしれませんね。高校生が競争するのは甲子園ですから仕方ないのですけれども、ただ、今、御発表いただいたように、神楽というのはもともと、まさに神にお見せする芸能だったわけです。それを今や観光に使っていくという時代になっている。しかも、これまでは本当に限られた形でしかやられなかったけれども、今年からは上演回数も倍にされるということで、これも非常に大きな挑戦だと思います。それだけ神楽団の皆さんの負担というのも大きくなると思いますけれども、地域の皆さんが力を合わせて、その負担をしていく。それこそこれでお客さんが来なかったらどうなのかなというふうに思われるかもしれませんが、そういったことは乗り越えて、やってみよう。これで先ほどの東京のお客さんのように、いや、世界遺産よりも神楽の方がいいんだというお客さんが1人でも2人

でも増えたら、これは大成功だと思うのです。やはり長い時間がかかるかもしれませんが、神楽がそれによって、やはり皆さんに理解されて、評価をされて、そして、新しい形で地元さらに根付いていくということになるのではないかと思います。

先ほど溝本さんもおっしゃっていましたが、ぜひ、安芸高田市だけではなくて、この地域全体、神楽が大変盛んなので、皆さん力を合わせてやっていただければと思います。本当にどうもありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いいたします。

それでは続いて、安芸太田町の吉田秀政さんをお願いしたいと思います。吉田さんを簡単に御紹介させていただきますと、実は、今年5月に宮城県からいらっしゃいました。安芸太田町の観光協会で常務理事の募集をされたのですけれども、その常務理事に採用されて、宮城県からいらっしゃっていただいたということでもあります。赴任の前には、この震災でのボランティアも御経験されたと伺っております。

安芸太田町では、森林療法や地域文化、自然体験などのヘルスツーリズムなどの観光を中心とした地域産業再生の担い手として「新たな経済成長」などに取り組んでいらっしゃいます。

発表のテーマは、「町の『強み』を商品にしよう！そして皆で豊かになろう！—安芸太田町観光振興元年の誓い—」であります。それでは、吉田さん、よろしく願いいたします。

(吉田 (事例発表者))

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介いただきました安芸太田町観光協会の吉田でございます。どうぞよろしくお願い致します。

では、早速、お時間も10分ということですので、発表させていただきます。

タイトルはこのとおりでございます。15ページございますので、次々と御案内させていただきます。

これは、私の行動規範ということで、実は3月11日、被災を経験しまして、非常にいろいろな思いを込めてこちらに来ております。一時は来るのをやめようかと悩んだときもあったのですが、私をお選びいただいた安芸太田町の方々の思いに是非お応えしたいし、私自身も責任を果たしたいということで、ここまで来させていただいた次第です。したがって、どちらかという、言葉の行動規範としては地獄の底からはい上がれみたいなことが多くて、ただ、これは紛れもなく私の行動規範ですので、御案内させていただきます。

もう一点、大震災のときに思ったのですが、本当に人と地域のつながりが重要なんだということを感じました。今までは言葉も交わしたことのないような方々同士で水汲みやらお互いに助け合いやらをするようになる。つまり、日本そのものがこれからいろいろな意味で厳しくなっていく中で、一人ひとりこういう形でもってやらなければならないというようなところを強く今回感じて、ここまで来た次第です。

そして、これは一般的な話になります。なぜならば、溝本社長様ですとか、杉原さんは、

もう10年以上この地で御苦労されて、そして、今に至っている方で、私はまだ2カ月ということですので、ちょっとぼやっとした話になるかもしれませんが、そういったことも含めて御了承いただきたい。その上での御案内です。

観光振興のパラダイムシフト、つまり、考え方が変わりますという意味です。一般的な観光振興の考え方、そして、私なりの観光振興の考え方、簡単に言いますと、目的は何でもいいのです。町にお客様が来ていただいて、人が来ていただいて、そして、交流を図り、簡単に言うとお金を落としていただいて、そして、最終的に住んでいただけるような、それが観光振興のあり方だと考えております。したがって、観光協会という名前も、本当は訪町振興協会ぐらいの勢いでやらせていただいてもいいのではないかと考えております。

先ほど、知事が強みというふうにおっしゃっておりました。強みと弱み。去年の安芸太田町の未来戦略会議でも出たというふうには聞いておりますが、特に私が思いますに、強みはもちろんなのですけれども、弱みをも商品化できる時代に入ったのではないかと考えております。これはまた後ほど御説明させていただきます。これが今までの観光協会の仕事。三点ほどやらせていただいております。

次に、これから行う観光協会の仕事。今、行っていたような仕事に、さらに付加をして、これだけの仕事をさせていただきたいと思っております。幸いなことに県の緊急雇用対策事業で職員さんも期間限定ながら入っていただくことになりまして、かなり前向きにどんどん仕事をしていけるのではないかと考えております。

「イベント型地域おこしから地域の強みを生かしたスモールビジネス型地域おこしへの展開を啓蒙・支援」、「町内外の人材・知財、資金を有期的かつ多面的にビジネスにつなげる」、「一貫性のある戦略的かつ複合的プロモーション」、「先進的マーケティングと地域への提言、フィードバック」、「定住者促進を新たな切り口で支援」、「社会問題や時代の流れを常に意識した素材探し」、「町内の諸問題の解決に貢献できるコンサルタント機能を持った協会でありたい」。

具体的にどういうことなのかということで、2011年、観光協会では五つの取組をさせていただきますということで御案内しております。

一つ目が、海外からのお客様ですとか、県外かのお客様等々いろいろあるのですけれども、そもそもが、広島市のお客様からどれぐらい安芸太田町というのが認知を得て、評価を得ているのだろうかということをごこのところずっとマーケティングをしておりました。そうしますと、安佐北、安佐南以南のお客様にはあまり知られていないという状況がはっきりしてきました。知られても別に行く気もない。行くつもりもないということがこのところ分かってきました。ということであれば、まず手をいろいろなところに伸ばすよりは、広島市に絞りこんでやってみましょうということで、今やらせていただいております。ついでに、広島市に来られた方もちょっとひっかけられたらいいなぐらいのところ、今はやらせていただいております。それが一番目でございます。

そんなことで、次にこの五つを詳しく説明したことがございます。まず一つ目、広島市民及び広島市来訪客をターゲットにした繰り返しのマーケティングとプロモーション。何でしつこくマーケティング、マーケティングと言っているかといいますと、成功には方程式はありませんが、考え方、商売の理論ですとか、もしくは宣伝の仕方というのは、確固たる理論というのがあります。この理論を無視していろいろなことをやっけてしましますと、非常に遠回りになる。もしくは失敗する可能性が高いということで、確実に成功するとは言いきれませんが、できるだけ成功するべく、こういったことをやっけていきたいと思いますということで書かせていただきました。特に大事なところとしましては、ここに繰り返し実施とあります。つまり、今まで事業をやっけて、はい、終わりましたということが結構多いのですけれども、そうではなくて、それを測定して、さらに分析をし直して、また、改良してやり直す。これを繰り返し、繰り返し、何度も、何度もやっけていくことが非常に大事ということで、一番に挙げさせていただいております。

次に、その2ということで、戦略的な人づくりへの挑戦ということで、実は先ほど職員さんを期間限定でというお話をしたのですが、お二人のうちの一はUターンで、この安芸太田町に戻ってこられた方です。その方を職員さんとして採用させていただきました。なぜならば、やりたいことがあると。スモールビジネスをおこしたいんだと。ノウハウはあるけれど、お金も、いろいろな方との関係もないと。さらに、マーケティングが弱いということを知りましたので、であれば、協会でお世話をして、その期間、様々な人と連携をしてそういったことをうまく学んでいただきまして、最終的に資金調達のお手伝いをして、そして世に送り出そうというようなプロジェクトです。既にこれは始まっております。

何をねらったかと言いますと、U・Iターンを増加させる近道というのは、成功者を出現させることだと私は思っております。成功者が新たな挑戦者を引き込むことになると考えてのことでございます。したがって、定住者を増やしたいということであれば、成功者を一人でもまずは出して、それを継続的に協会としてサポートしていくことをやらせていただきたいと考えております。

取組その3ということで、実は今日も三段峡の三段滝で滝つぼの清掃を広島市から来られた方々13名と、安芸太田町の方2名が、今まさにやっけている最中だと思います。これは何かと言いますと、ここにいらっしやる中国新聞さんに取り上げていただきまして、困り事を商品化したらどうなるかということで第一回目をやっけてみました。三段滝が、なかなか三段峡の皆さんが高齢化してきて掃除をするのが大変だということで、困り事だったら商品化して、お金をもらって手伝いに来てもらったらどうでしょうということでやっけてみたところ、13名集まっていた。町内からも出た。ということで、こういったビジネスも、先ほど申しましたが、弱みが強みに、そして、商品化に結びつけられる時代がやっけてきたということで、これは全国的な展開、ボランティア意識というところで、その4に当たるところかと思っております。

そのほかにも、その1, 2, 3というところで、それぞれ御覧のとおりを取組をさせていただければと思っております。特に高齢化が進む都市部の住宅団地と安芸太田町をつなぐ交流定住戦略の促進ということで、これについては具体的に旅行会社と組んで9月から実施する予定でございます。

取組その4, これは県の観光課さんとともにやらせていただいておりますが、1月までにプログラム、パンフレットをつくる。完成させて、セールスまで向かうことを目標としております。しかしながら、安芸太田町ならではの問題、解決策をプログラム化して、特徴的、教育的プログラムの展開にもっていきたい。例1, 2, 3ということで書かせていただいております。やはり人と人との絆というところを強く意識した企画にしたいと考えております。

取組その5, ヘルスツールズムへの挑戦ということで、広島県に初めて森林セラピー基地認定への挑戦をただいましております。7月14日にはヘルスツールズムの推進協議会が立ち上がりました。これが成功するかしないかはこれからの努力次第ではあるのですが、一番大事なところは、この森林セラピーをそのまま売りつけるのではなくて、町民の方々にまず試していただいて、町民の方で実施をし、町民の方がそれを証明することで初めて世に出せる。そして、全国的に売れるもの、差別化になるものだということで、来訪者の健康づくりと観光産業の融合を目指すということでやらせていただいております。ちょうど大阪から安芸太田町に越された方がいらっしゃいまして、その方を中心に展開しております。

これが安芸太田町観光協会のこれからの考え方のイメージ図です。様々なところと組み合わせていただいて、新たなビジネスモデルを確立するという考え方です。インサイドアウトという考え方なのですが、自分がまず変わって、そして、周りを巻き込んで動いていくという考え方です。先ほども出ましたが、三段滝の清掃、昨日、今日とやらせていただいているものも例です。

最後に、いずれにしましても、ピンチはチャンス。ピンチを的確にチャンスと、ピンチと認識しまして、その上で前に向けるように、一人ひとりの町民の皆さんと向き合って、できるだけ皆さんを巻き込んで前に進めるような形をとっていきたいと思います。

まだ赴任して2カ月でございます。したがって、まだまだこれからの部分がございますが、できるだけ頑張ってまいりたいと思います。

最後になりますが、実は三段滝の清掃をしていただいた方、昨日、今日としていただいているのですが、昨日の夜、一緒に飲ませていただきました。安芸太田町に何が足りないのか。何をすべきなのか。かなり熱く語っていただいたのですが、今朝、こういう形で紙をいただきました。本当にありがたいことです。嫌なことも当然書いてあります。しかしながら、この嫌なことも含めて受け入れた上で、どう向き合うかということこれから観光協会としては、私個人としても、やっていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

ました。

(知 事)

吉田さん、ありがとうございました。今のお話の中には幾つもキーワードがあって、弱みを強みとか、ピンチをチャンスにとか、本当にそのとおりだと思います。県内でも、例えば雪というのは、これまでどちらかというところと邪魔なものというふうには受け止められていたと思うのですが、庄原市のほうではこの雪を使って、この雪を資源化しようとか、そういうことが行われています。しまなみの方ではサイクリングが非常に盛んになりつつあるのですが、なぜサイクリングに適しているかというところ、景色がいいというのはもちろんあるのですが、サイクリングをする人たちにとっては、車が少なくていいということ、つまり、人が少ないということですが、弱みと思われるものは、実は見方を変えると強みになる。それと同じように、ピンチは必ずチャンスになるということだと思います。それを本当に実践的に取り組んでいただいて、安芸太田町でもたくさんの弱みを強みにして、ピンチをチャンスに変えていただきたいと思います。困り事を商品化なども本当にそのとおりだと思いますけれども、この新しい考え方で是非これからも頑張ってくださいと思います。それでは、もう一度大きな拍手をお願いいたします。

それでは、最後の事例発表になります。北広島町の杉原幸成さんでございます。杉原さんの御紹介をさせていただきますと、民宿「あるペン屋」を運営されていらっしゃいます。そして、地域の皆様とともに、中国や韓国など海外、そして、都市部からの農山村体験交流事業の受入れや、特色のある地域商品の開発など、豊かな地域づくりなどに取り組んでいただいております。

今日の発表のテーマは、「芸北地域未来チャンレンジーわしらの住処はダイヤモンドの上ー」です。杉原さん、どうぞよろしく願いいたします。

(杉原 (事例発表者))

こんにちは。よろしくお願いします。私は、この北広島町、芸北というところへ20年前にIターンでやってまいりました。あまりにもいいところで、住み着いて、ここがいいということが分かって来たのではありますが、毎日、毎日が新しい発見。宝をいまだに発見しております。そういったことを家族で楽しんでおります。

この一つ一つの宝を生かさなければいけないというところから、地域おこしをしようということで、わしらの住処はダイヤモンドの上なんだと、そういう気持ちを常に持って、いろいろな事業や地域おこしに頑張ってくださいいただいているところです。

何で地域おこしなのかと言ったら、先ほど知事のほうから人口減少のお話がありましたが、例えば、これは私らの集落で小さい話ではありますが、私が来た20年の間に人口が半

分になっております。その間には、特に私たちのところは高齢化が進んでおり、今後の20年と言ったら、ほとんどおらんようになるのではないかと。限界集落という言葉がありますね。限界集落が更に進んで無人化した場合、消滅集落という言葉も使っております。人口が減って、人がおらんようになったら、やっぱりすべてが回らなくなって、地域の自然、8,000年経過した素晴らしい自然とか、そういったものがなくなっていく。これは人間と草原とか、そういったかわりがある動植物、完全に関連して生存しているわけです。生物多様性がまず崩れる。冬の雪にしても、例えば屋根の雪おろし、これも全くできなくなるということが目に見えてきております。

ここで、私たちが始めた地域おこしのやり方というのは、国、県、町と同じ方向性でもって、私たち地域の者がまず動く。本気で動く。その動いたとき、県や国や町とすぐ連携がとれてきて、それが一つの町おこしとして、地域がやる気が出てきて、意識が変わっていくということでやっております。

これは、当初、県や国の補助金を使ったりして、私たちの地域自体でも、そういった国の補助金をいただいて活動をしていくこともあります。それも、民主党の仕分けに引っかかって中止になったこともあります。決してそれは死んではいません。確実にまだ生きて、少しずつ前に進んでいると思っております。

A T A、これは、地域の人たちのほうが地域の魅力を当然知っているのだから、旅行業者がつくった旅行商品よりも価値が高いものだとすることで、もっと地域の人たちが中心になってそういった旅行商品をつくりなさいということも国を挙げてやっているわけです。これに乗っかって、いろいろなことをやっております。

地域ブランド、地域産業資源というのがございます。これは、各市町村が県のほうにそういった地域の宝を登録して、その登録した宝を商品化するということで、今、北広島町では米粉とかどぶろく、そういったものを登録していただいているので、その中でまず商品化を始めています。

実は民宿を営んでいるのは私の妻で、私は社長でも何でもないので。私は自分でどぶろく仕込人というふうになって歩いております。どぶろくをつくったら、どぶろくをつくった後に当然麴があるので、非常に価値の高い甘酒をつくってやろうじゃないかということで甘酒をつくったり、N P Oで、皆さん御存じだと思いますが、「まいてんしん」という、シソの粉を入れた、米粉でつくった餃子ですね。そしてこれを食べるのに薬味をつくらうじゃないかということで、赤シソにとがらしを入れた紫蘇胡椒、ちょっとめずらしい薬味ができて、これも、非常に「まいてんしん」に合い、肉料理にも合う薬味として、少しずつですが、売上げが上がってきているところです。どぶろく饅頭等、そういったものも実際につくって販売を始めております。

これはA T A、着地型の旅行商品として、町で子ども農山村交流プロジェクトをやりやるのですけれども、これは子どもたちと一緒に沢登りをして遊び、秋に畑に植えた大根を、

冬に子どもたちと一緒に掘り出して、それを料理して食べる。そういった体験をすると、子どもたちは家に帰って、まねしてその料理をして親に食べさせるなど、非常に子どもたちが明るく変わったという話をたくさん聞いております。

この写真は、中国からの、四川省成都市の子どもたちです。

これは去年、韓国の軍の役人さんたちが地域おこしを見たいということで私のところに来られたりして、そういった町の今までの取組を勉強して帰られて、こういった交流事業で、私はいまだにメールをいただいたり、ずっとつき合いが繋がっております。韓国の旅行者さん何社かと本気で真剣におつき合いをして、冬のお客さんを連れてきてもらえないかとか、トレッキングのお客さんを連れてきてもらえないかと言って、去年はトレッキングのお客様を、6月に言って、11月には約100名近いお客さんに来ていただきました。

これは、ほとんどが北広島町の民宿を利用したのですが、人数が多いときには、もう北広島町だけでは全く賄えません。民宿が少なくてもどうしようもないぐらい今、ニーズが高くなってきています。そういった中で、観光協会、民宿組合とも話をしながら、民泊の対応を考えようという話も出ているところです。

これは、四川省成都市の高校の先生方なのですが、夕食を早く食べて、いいところに連れて行ってやるからと、夜にホテルを見に連れて行ったら、ものすごく感動して、先生が涙を流して歌を歌い出して、そのぐらいうごくきれいだ。民宿の中とか、トイレとか、施設もものすごくきれいだ。我が家に帰ったときに、紙と筆をくれと言われて、山がきれい、水がきれい、人はなおさらきれいとか、そういったすばらしい言葉を残してくれています。

これは、二日間いた男の子とか女の子が、二日目には別れるのが寂しくて、ここの杉原家の名前がほしいと。子どもがそういったことを言われるのです。別れるときにはわんわん泣いて別れる。すごく感動の多い事業です。

これは、1月に韓国の業者さんの視察旅行というのを、私たちが単独で韓国に行って営業して、私たち民間が引っ張ってくるのですが、そこへ町としても人的な補助をいただいたり、一緒についていってくれたり、本当に一生懸命やっただけなので、非常にその結果が今出てきて、韓国で一番有名な旅行雑誌の中に、4ページぐらい北広島町を載せてくれています。もう一冊あるのですが、これは韓国の理髪店とか喫茶店には全部置いてあるというような本に、やっぱり2ページぐらい、こうやって載せてくれて、すごく宣伝をして、来年のためになるのではないかという思いでおります。

これは、今後の事業展開というか、地味なのですけれども、県に登録してある地域産業資源を使ったもので、北広島町の場合、今年はまだ雪が入っていませんので、雪を入れてくださいということでお願いして、町のほうから挙げてもらって、この秋から、雪も地域産業資源となっています。そういう指定がされていると、先ほどの国の補助金を使うことが可能になってくるわけです。

今、取り組んでいるのはどぶろくシリーズということで、どぶろくの石けん、せんべい、シフォンケーキ、これがあと1カ月ぐらいしたら販売できるのではないかと。今、みんなで、NPOで相談しながらパッケージをつくったり、そういったことをやっています。これも将来的におもしろい商品になるのではないかと思います。

これらもみな町内のお菓子屋さんとか、そういったところをお願いしてつくってもらっています。先ほどのどぶろく饅頭もそうですね。そうやって、少しでも皆さんと一緒に活性化、元気がいい、経済効果のあるようなことを取り組んでやっています。

先ほどもありました着地型体験修学旅行の商品、これも1万人といたら、単純に考えて1人1万円計算で1億円になるのですが、もともと旧芸北町の冬のスキー場で、1軒が1,000人以上泊めるということが当たり前だったころは、その当時は民宿が150軒から170軒ありました。今はもう40軒なくて、常に営業している方は17軒ぐらいしかありません。非常にせっぱ詰まっている状況なので、こういった農家民泊もできれば一緒にできるような体制をとっていかねばいけないのではないかとということで、今、考えているところです。

将来的には、この廃校を利用した体験宿泊を考えています。これはかなりコストが落ちるので、そうすると、呼びやすいということで、今、地域の方ともいろいろ話をしております。

先日、韓国から来る予定のお客さんが放射能で全然来ないので、これはピンチだということで、仲間と一緒に自費で韓国に営業に行ったのですが、途中で方針を変えて、韓国はどんなことをやっているのだろうかということを業者に聞いてみたのです。そうしたらそこへ連れて行ってやると。実際行ってみると、たった数百人の集落で、そういった施設をつくって、200億ウォンの年間売上げだと。日本円で15億円ぐらいじゃないですか。すごいことをやっているわけです。それも非常に安くやっていました。そういうのを見て、日本のツーリズムは負けているのではないかといい気持ちになって、反対に、これをこっちに持ってきてやれば、非常に地域の活性化等できるのではないかと。最終的には、この北広島町に住みたいと。農業でもしながら住みたいというような方はたくさん今でもおられるのですが、なかなかそこまでいかないということなので、そういった民宿、民泊と農業とを兼ねれば生活もやっていけるのではないかとということで、こういったものを利用して定住を図りたいというような最終的な気持ちがあります。

早口でどうも申し訳ありません。どうもありがとうございます。

(知 事)

杉原さん、どうもありがとうございました。杉原さんのところは、中国四川省であるとか、あるいは韓国に着目をして、お客さんを引っ張って来られようということで大変努力をされていらっしゃるのですけれども、先ほどの吉田さんの場合には広島市に着目をする

ということで、それぞれ違いはあるのですけれども、ねらいを定めて、そこに向かって挑戦をしていくということが非常に大事なのではないかと改めて感じました。

地域の人が地域のよさを一番よく知っているというお話でしたけれども、杉原さん御自身はIターンでいらっしゃるのですか。

(杉原)

そうです。

(知事)

どちらから。

(杉原)

島根県の津和野からです。

(知事)

津和野からのIターンということですね。地域の人が地域のことを一番よく知っているのですけれども、他方で、あるものがほかの地域の人から評価をされるということを実は地域の人には知らなかったりすることがよくありますので、杉原さんのような地域の外の目というのも非常に大事なのではないかと思います。そして、その地域の中の知識をそれと組み合わせると、本当に素晴らしいものができるのではないかと。そういった印象を受けました。

ニーズが高まっていて、さばき切れないというお話でありましたので、これからますます、もっともっとさばききれなくなることを期待して、杉原さんに改めてお礼を申し上げたいと思います。それでは、もう一度大きな拍手をお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

意見交換

(司会)

それでは、湯崎知事の未来チャレンジビジョンの発表と、3人の皆様の取組の発表に関しまして、質問と意見交換を行いたいと思います。

なお、本日の懇談会は、安芸高田市、安芸太田町、及び北広島町での取組事例をお聞き

し、この地域を中心とした広島県の目指す将来像と新たな広島県づくりに向けて、皆さんとともに考えていこうというものです。

このため、質問と意見交換は、この趣旨と、これまでの発表を踏まえた内容のものに限らせていただきたいと思いますので、よろしく御協力をお願いいたします。

また、質問に際しましては、最初にお住まい、またはお勤めの市町名と、お名前、どなたに対する御質問か、御意見をかをお伝え願いたいと思います。どなたか御質問等ございませんでしょうか。せっかくの機会ですので、どうか勇気を出して手を挙げていただければと思います。では、前の方、お願いいたします。

(質問者 A)

こんにちは。私は、この北広島町内で旅客運送と旅行業を営んでおりますAと申します。よろしくお願いいたします。

ただいま事例発表をされた中の杉原さんと一緒にNPO法人に所属いたしまして、いろいろな活動をしております。その中で、先ほどの杉原さんの話にもございましたけれども、韓国のほうにも何度か一緒に営業に行かせていただきました。こちらに実際に旅行者の方が見えていただいたのも何件がございまして、視察もございまして、実際にトレッキングあるいは登山等のツアーでお見えいただいた山岳会の皆さんもおられました。その中で、皆さん、異口同音おっしゃることは、この田舎ですから、三つ星レストランがあるわけでもございませぬし、アメニティーから何から施設のそろった立派なホテルがあるわけでもございませぬ。でも、本当にここが一番よかったと。先ほどの視察に見えた軍の議長さん等をはじめ、職員の方々も、ずっと関西の方から岡山等を回られて、最後にこちらの北広島町にお見えいただいたのですけれども、ここが一番よかったと。料理もそうですし、立派な見栄えのする料理ではないのですけれども、本当に心のこもった日本の田舎料理、また、その宿泊をされた民宿等の皆さんのホスピタリティーのすばらしさ、こういったことをすごく評価していただいて、本当に自信を改めて持たせていただきました。日本人に対する認識が変わりましたというお言葉も頂戴しました。なので、本当に自信を持って発信して、海外からもお見えいただけると。そういう地域なんだと。そういう思いでいっぱいでございますけれども、やはり私たちがいくらしゃかりきになっても、先ほどどなたかの話にもございましたけれども、皆さん一人ひとりが、特にそういう事業にかかわる皆様方、町民の皆様方、が本当に真剣に取り組んでいただくということが大事だと思います。とは申しまして、この思いも寄らぬ大震災、それに伴います原発の事故、その風評被害の大きさにも改めて、先日韓国へ行かせたいいただいたときに非常に感じました。先日は教育旅行を中心に営業しようということで、韓国内の高校を中心に歩かせていただきましたけれども、学校の先生方は非常にこちらの状況、広島は福島から随分遠隔地でございますし、御理解いただいているのでございますが、やはり一番のネックは子どもたちの保護者、特

にお母さんであるということでした。影響がないのかもしれないけれども、ひょっとしたらあるかも分からないのに、何も今、日本に行くことはないだろうと。実はこの来月にも1校ほどソウル市内の高校の修学旅行、北広島町内に見えていただくのですが、そういう話に至ったきっかけは、冬に視察に見えていただいた業者さん等と一緒に学校の教育旅行の担当者の方もお見えいただいでいて、その先生がここのよさというのをすごく感じていただいたから、冬だけじゃない。他の3シーズンもいろいろな素晴らしい資源がありますよということを御案内しましたら、是非夏に修学旅行を実施するので、1日はこちらに来るようにしましょうという約束をしていただいでいて、実際にその計画をしていただいでいた中で震災ということ、これはとても来てもらえないなと思っていただいでいたのですが、でも、一応対象になる子どもさんが80人おられるということだったのですけれども、実際お見えいただくのは現在26名。子どもさんが26名ほどお見えいただくということになっております。でも、本当に来ていただいけるだけですのですごくありがたいなと。相当な勇気も要るのではないかと思います。そういつて来ていただいた皆さんが、こちらの状況を見ていただいで、自国へ帰られて、そういう発信、口コミ等々、あるいは韓国はすごくネット社会、IT社会ですので、ブログ等々で発信もしていただいけるのではないかと期待も実は持っております。

そういったようなことがございますので、お願いしたいことは、地域の皆さんが本当に一生懸命取り組んでいただくとということもお願いしたいですし、これまで以上に、さらに、国をはじめとして行政のほうからも是非御支援をいただきたい。それは経済的なことだけではないのですけれども、例えば先日来、二度ばかりメディアで発信されていましてけれども、韓国から、下関のほうに4～5人のブロガーの皆さんを招待して、長府の古い町並みとか、宇部のあたりとかを歩いていただいで、その状況をブログで発信していただいたら、カリスマブロガー的な女の子なんか1日に何万件もアクセスがあるような方もいらっしゃるというお話でした。だから、そういったようなこともこちらの方でも是非お願いできないかと思います。

ただらだと、とりとめのない話になってしまったのですけれども、もう一点、今ちょうど事例発表していただいたお3方のそれぞれの町あるいは市が、個々にそういう取組をされるということももちろん大事だと思いますけれども、連携をしていくことによって、より大きな、この芸北地域、奥安芸の地域の魅力をさらに高めることができるのではないかという思いもありますので、是非そういったことも1市2町、さらには廿日市市、広島市もでしょうけれども、とりあえず芸北地域の3自治体でそういうことを本当に取り組んでいただきたいとお願いしたいと思います。どうも長々と失礼いたしました。ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。湯崎知事、一言コメントをいただけますでしょうか。

(知 事)

ありがとうございました。いろいろな要素をおっしゃっていただいたのですけれども、一つは、私ども県のほうで、いろいろな観光を推進していく中で、三つ大事なことがあると思っています。一つは、様々なサービスを提供される事業者さんがそれぞれ工夫したサービスをされるということです。まさに、今、実地に皆さんに取り組んでいただいているところですが、それが一つ。もう一つは、全体のホスピタリティー、先ほどもお言葉を使われましたけれども、「おもてなしの心」というのが、サービス事業者さんだけではなくて、地域全体、お客さんが来たときに、ちょっとしたところで御挨拶をしたり、ちょっとした親切が大変に喜ばれるということで、地域全体が受入れに対する気持ちを持っていくということ。それから、もう一つが共同のPRをしていくということが大事ではないかと思って取り組んでいます。

先般、私も韓国と中国に行ってきました、この風評被害の問題については、いろいろなところで御説明させていただきましたし、韓国の場合には、青少年交流協会という、こういった修学旅行等、斡旋をしてくれる、送り出してくれる団体があります。そこへ行って、西日本、そして広島安全性を強調して、安心してくださいと。まさにそういった親御さんの問題などがあるのですけれども、御自身たちで日本をもう一度訪れて、安全であるということPRさせていただきますというふうにおっしゃっていただきましたので、これからまた韓国からの研修旅行というのも増えていくことを期待しているところでございます。どうもありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。

ほかには、どなたか御質問ございませんでしょうか。どうぞ。

(質問者 B)

美土里町から参りましたBと申します。本日、湯崎知事の講話は大変よかったと思いますが、いずれにいたしましても、私、一点ほど湯崎知事に質問したいと思います。先ほど知事のいろいろな説明の中で、行政の職員は、後押しはするけれども、というお言葉があったと思うのですが、私は、県なり、あるいは市なり、あるいは町役場、市の方でも、職員さんがむしろ率先して地域の行事、いろいろなことに参加していただいて、こういったところはこうしたほうが良いというアドバイス、あるいはいろいろなメニューについて御指導いただければ、地域の方も非常にいいのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。質問を終わります。

(知 事)

ありがとうございます。まさにそういったことが私は後押しかなと思っておりまして、地域のお祭りなども、行政がお祭りをやったのでは活性化しないと思うのです。あくまで、そのお祭りを実行されるのは自治会であったり、地域の皆さんがやられる。そこをこうしたほうがいいのか、あるいは行政の職員が、おっしゃったように、そこにメンバーとしても参画をしていろいろなことお手伝いするというのがいい姿ではないかというふうに思っておりますので、恐らく同じ趣意ではないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(質問者 B)

どうもありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。ほかに何か御質問、ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、時間が押しておりますので、次の「私の挑戦」の発表に移りたいと思います。貴重な御意見と御質問、本当にありがとうございました。

挑戦発表

(司 会)

では、次の「私の挑戦」の発表は、ここでまた湯崎知事にコーディネーターを務めていただきます。湯崎知事、どうかよろしくお願いいたします。

(知 事)

それでは、ここから「私の挑戦」ということに移りたいと思いますが、今回は、募集をいたしましたところ、中学生3名1組、そして、高校生が2名、そして、一般の方1名の御発表となりました。

本日ここで皆さんに発表していただきます地域で取り組まれているいろいろな挑戦が、明日の元気な広島県づくりのためになると思っておりますのでございます。そういう意味でも、元気よく発表をお願いしたいと思います。

まず、初めは県立吉田高校神楽部部長 佐伯翼さんであります。テーマは「とどろけ神楽の響き－高校生の神楽甲子園へー」であります。それでは、佐伯さん、よろしくお願

ます。

(佐伯 (挑戦発表者))

よろしくお願ひします。私は、5歳のころより地元の神楽団に所属して、ずっと神楽を舞い続けています。祖父、父親が神楽団員ということもあり、幼少のころより神楽の公演が行われるたびに、ステージの正面に陣取って、家族で神楽を楽しんできました。吉田高校に入学し、神楽部で活動しながら、週2回地元の神楽団の練習に参加し、神楽の舞方や口上を習ってきました。勉強とクラブ、地域の神楽団の三つを両立させ、充実した高校生活を送っています。

私の住む美土里町では、今13の神楽団が活動をしています。神楽が人々の神社や神に対する信仰心をつなぎ、自然や神の脅威、恩恵に対する先人たちの心を今にとどめる大きな役割を果たしていると言えます。

また、各身近に、神社を中心に神楽団を組み、氏子自身が神楽を舞うことは、地域の中の連帯と共同意識を高め、助け合いを可能にする地域の人をつくってきました。

あるとき、公演が終わった後に、お年寄りが楽屋に寄ってきて、「昔、舞いよった誰々にそっくりじゃ。大分薄れてきとったが、あのころのええ舞をしたで」と褒められたことがあります。子どもからお年寄りまで、神楽によって絆を強めていることを実感します。

吉田高校では、私のような生徒が、安芸高田市、北広島町の九つの神楽団に所属して、勉強とクラブ、神楽団で頑張っています。私たちのこういった取組が評価されて、このたび、第一回高校生の神楽甲子園が地元美土里町にある神楽門前湯治村神楽ドームで開かれます。これは、各地の高校生神楽が一堂に会し、交流を深め、郷土芸能の保存・伝承を図ることを目的に行われるものです。

今回はまだ5校の参加ですが、今後、全国の高校に呼びかけ、毎年開く予定でいます。

この機会を通して、自分たちの力で大会を盛り上げ、多くの人に吉田高校神楽の気合を見てもらい、他校の神楽部の生徒とも交流できることを楽しみにしています。

また、今月末には韓国との交流も行います。日本伝来の郷土芸能のスケールの大きさと、ダイナミックな動きで海外へも発信しながら、国際的交流にも役立てていきたいと考えています。

神楽甲子園を成功させることで、神楽の響きを通じた交流の輪を全国に、そして世界へ広げていき、地元の振興につなげる覚悟でいます。それが神楽の里に生まれた私の責務だと思っています。以上です。ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございました。神楽というのは、本当に地元に着した伝統行事であるわけですが、それを受け継いだ上で、さらに全国から世界へというふうに大きな夢を持つ

て、それを広めていきたいということでもあります。本当に是非頑張ってくださいと思います。佐伯さん、どうもありがとうございました。改めて拍手をお願いします。

続いて、加計高校の田邊臣さんです。テーマは「高校生として町のためにできること」であります。それでは、田邊さん、お願いいたします。

(田邊 (挑戦発表者))

加計高校の田邊臣です。私は、高校生としてふるさと安芸太田町に貢献するために、三つの挑戦を行っています。

一つ目は、町から支援を受けている進路対策講座で勉強することです。安芸太田町は広島県で最も人口が少なく、中国地方で最も人口減少率が高い町です。そこで、定住対策のためには、高校の存続が不可欠であるとの考えから、加計高校を支援してくださっています。加計高校ではこの支援を活用して、進路対策講座が行われています。進路対策講座とは、放課後から夜にかけて、普段の授業とは別に、定期テストや模擬試験などに向けて、民間学習塾で経験のある講師の先生から教えてもらいながら、自分がやりたい勉強をするというものです。私はそこに通いながら、部活動と勉強を両立させて、大学進学を目指して頑張っています。そして、将来は大学で勉強したことを生かして、地域活性化に貢献したいと考えています。

二つ目は、安芸太田町の魅力をもっと深く知るために、自分たちで企画して、町内の豊かな自然に触れる。自然体験活動に取り組むことです。私たちは進路対策講座の講師の先生の助言も受け、これまでに町内の登山やホテル観察などを生徒で企画し、実行に移しました。登山では、安芸太田町にある恐羅漢山という広島県で最も高い山に挑戦しました。登り始めてすぐに山登りの大変さを知りましたが、頂上に着いたときには、何とも言えない充実感があり、見晴らしのよい景色は素晴らしかったです。また、ホテル観察では、私たちの住んでいるところから歩いていける距離で、今まで見たことのないようなたくさんのホテルを見ることができて感動しました。これらの活動を通して、私は安芸太田町はこういった豊かな自然に恵まれていることを再認識しただけではなく、このよさを町内外の方や観光客の方など、一人でも多くの方に知っていただきたいと考えるようになりました。そのために自分たちに何ができるかを考え、挑戦していきたいです。

三つ目は、町内のイベントにボランティアとして積極的に参加することです。加計高校の生徒会は毎月校外清掃活動を行っていて、加計小学校や山県警察署の方々と一緒に公園や道路を清掃しています。希望者が参加することになっていますが、毎回全校生徒の半数以上が参加しています。私は2学期から整備委員長になるので、より力を入れて町をきれいにしていきます。

また、町からいろいろと支援をしていただいているので、少しでも恩返しができたらとの思いから、しわいマラソンなどの町のイベントにボランティアとして参加しています。

しわいマラソンとは、広島県初のウルトラマラソンで、日本最大級の高低差で、過酷なコースを88 km走るといふものです。私たちはエイドステーションとゴール地点でボランティアスタッフとして活動しました。このように町のイベントに高校生を多く参加させることによって、過疎化、少子高齢化が進む町を元気にしていきたいと考えています。これで私の発表を終わります。

(知 事)

田邊さん、ありがとうございます。生徒の数が少ないからこそ、進路対策講座といった支援の方策が行われているのだと思いますけれども、その勉強ができるということを感じて、自分のためでももちろんあるけれども、地域のために勉強してくれるというのは本当にすばらしいお話だと思いました。街の高校生にはとても考えられない発想ではないかと思ひます。それがまた地域のために、地域のことを学ぶ、あるいはボランティアというところにつながっていくということで、本当にいい循環ができていふのではないかと思ひました。田邊さん、これからも頑張ってください。ありがとうございます。もう一度、拍手をお願いします。

次は一般の方で、県外から北広島町に1ターンでお越しになつた方で、農業に取り組みられていらっしゃる方です。森山百合枝さん、テーマは「森林整備、農薬を使わない農業で持続可能な循環型社会に」であります。それでは、森山さん、よろしくお祈ひします。

(森山 (挑戦発表者))

森山です。よろしくお祈ひします。私は神奈川県に生まれ、千葉県で育ちました。7年前に緑のふるさと協力隊という事業に参加して、初めて広島県の地を踏み、そして、北広島町の芸北で1年間、農作業やイベントなど様々な経験をさせていただきました。それから3年間は新潟や群馬で農業研修をして、4年前にこの芸北の貴重な自然や、私を温かく見守ってくれる人のいる芸北で化学的農薬や化学肥料を使わない農業がしたいと思ひ、知人や役場に相談をして農地を探していただき、農業を始め、今3年目になります。

この3年間で感じたことは、思つた以上に、昔よりホタルや動物、植物、様々なものが減少してきて、その逆にイノシシやクマ、サルなどを目撃する数が増えてきて、森の方では松枯れ、ナラ枯れなどが増えてきているということです。

私は、人間が生きていくのに大事なのは何かと思つたときに、森が一番大事だと思ひました。二番目は農業だと思ひます。世界では砂漠化が進んでいて、農地もなくなつてきているのですけれども、日本にはたくさんの森があります。森には保水力もありますし、カーボンニュートラルとしての機能、薪(まき)や木材としての用途、ほかにもたくさん能力があります。でも、それは管理をしてこそある機能で、管理しなければその機能はなくなつてしまひます。農業では、昔に比べ、化学的農薬を使用する場面が増え、農薬散布中に体

調に異変を感じたり、農薬の影響でハチや動物などが減少しているという話も聞いています。またアトピーや化学物質過敏症の原因になっているのではないとも言われていますし、ホテルなどが減っている原因のひとつになっているのではないかと私は考えています。

森や農地、これは宝だと思うのですけれども、この宝を大事にしていかないと、宝も宝でなくなってしまうと思います。私はすごく小規模なのですが、町内とか県外の友達、知人などの協力を得ながら、クマなどの獣対策のために農地の周りの木を切って、灰と炭は田畑に戻して、化学的農薬や肥料は使わない農業をこれからもやっていきたいと思っています。また、こういう貴重な自然を、住んでいる人たちが再認識して守っていく気持ちが広がっていけばいいなと思います。以上です。

(知 事)

ありがとうございました。7年前に一度経験をされて、そのときの御経験が忘れられなくて、もう一度来ていただいたというふうに理解させていただきました。この芸北地域は、森も、あるいは農業も、非常に自然の豊かなところだと思うのですけれども、それを自然な形で守っていくということは大変なことであると思います。化学肥料で農薬を使えば簡単な部分があるでしょうけれども、それをあえて使わないで、自然を守っていくということで、その御努力に敬意を表したいと思いますし、これからも頑張ってくださいと思います。どうもありがとうございました。もう一度森山さんに拍手をお願いいたします。

次が最後の発表になります。地元の北広島町立千代田中学校から3名の生徒の方においていただいております。岡田彩さん、奥田真由さん、濱本麻衣さんの3名で、テーマは「私たちの千代田中学校での挑戦」です。それでは、よろしく願いいたします。

((奥田) 挑戦発表者)

千代田中学校の奥田真由です。私の挑戦はクラブ活動です。私は、今、千代田中学校女子バレー部のキャプテンをしています。私たちは、初めての大会の新人戦で優勝しました。それで、どこの学校も私たちに勝つという思いで練習をしていましたが、私たちは優勝したという意識をつくってしまい、郡選手権ではなかなかうまくいきませんでした。顧問の先生も3年間かわり、なかなかじめなくて不安でした。けれども、他の先生方も私たちのために頑張ってきてくださったことを忘れずに、この郡総体が最後の大会にならないように、必ず県大会に行けるように、残り少ない練習を大切に頑張っていきたいと思っています。以上です。

(岡田 (挑戦発表者))

私は千代田中学校3年の岡田彩です。私は生徒会について紹介します。千代田中学校は今、生徒を主体に行事に積極的に挑戦しています。この千代田中学校があるのは、先輩方

が頑張ってくれたおかげです。昔の千代田中学校は、「悪い」という印象しかありませんでした。この印象を変えるために、先輩方はボランティア活動やエコキャップ運動などに取り組み、世界や地域に貢献し、千代田中学校を新たな千代田中学校へと変えてくださいました。私も、先輩方とバトンタッチし、今年度のスローガンの「切磋琢磨」をテーマに、さらなる千代田中学校の向上を目指し頑張っています。

私がこれから挑戦していきたいことは、先輩方が残してくださった伝統を今以上に伸ばしていき、私も残り少ない中学校生活の間で伝統をつくり、後輩に受け継いでもらいたいことです。以上です。

（濱本（挑戦発表者））

私は千代田中学校の濱本麻衣です。私は、千代田中学校で行われているボランティア活動について紹介します。

千代田中学校では、2年前に荒れていた中学校を立て直すため、生徒会を中心に様々な活動を行ってきました。その挑戦の一つがボランティア活動です。全校生徒での学校周辺の清掃活動をはじめ、千代田中ソーラン、千代田中太鼓、夏祭り会場準備などの活動にも力を入れて取り組んでいます。

一人ひとりの活動によって、今ではもう2年前とは違う中学校に進化しています。ボランティア活動をすることはそう簡単ではありませんが、千代田中学校をよりよく、そして、これからも地域の方に信頼していただけるような学校づくりにつながっています。以上です。

（知 事）

ありがとうございました。部活と生徒会、そしてボランティア活動という、それぞれの挑戦を紹介していただきましたけれども、本当に中学生らしい挑戦で、挑戦という話をしているときに、私は難しいことに取り組むことだと申し上げましたけれども、その難しいことというのは、必ずしも絶対レベルで難しいことということではなくて、それぞれの立場、それぞれの役割の中でより一歩でもいいものを、少しでも成果の上がるものに取り組んでいくことが挑戦だと思います。中学生は中学生として挑戦をしていますという御紹介をいただいて本当によかったと思います。岡田さん、奥田さん、濱本さん、これからもよりよい千代田中学校づくりに励んでいただければと思います。どうもありがとうございました。もう一度拍手をお願いします。

（司 会）

ありがとうございました。

閉 会

(司 会)

以上で、予定のプログラムは終了となります。

湯崎知事、本日のまとめをお願いいたします。

(知 事)

それでは、時間も押している中で、皆さん最後までおつき合いいただきましてありがとうございました。

今日も、それぞれ3名の方、溝本さん、吉田さん、杉原さんに発表をいただいて、また、「私の挑戦」ということで皆さんに発表いただいたわけでありますけれども、本当に皆さんの力が社会をつくっていく。それぞれの力が社会をつくっていくということを改めて私自身も感じましたし、皆さんにもお感じをいただけたのではないかと思います。

また、挑戦というものは、それぞれの役割の中で、先ほど中学生の3人の中でお話をさせていただきましたけれども、それぞれの自らが果たす役割の中で挑戦をしていくということが大事だと思います。ちなみに、今日の3人の中学生の皆さんは、ここに来て、皆さんの前で発表するということが自体が大きな挑戦だったのではないかと思いますけれども、本当にこれを機に、皆様の御活動の中で新しいこと、そして、よりよいこと、一歩先に進むことに取り組んでいただけると大変ありがたいと思っております。

本日は、本当に最後までおつき合いいただきましてありがとうございました、と締めくくる前に、実は一つだけ、私からお願いがございます。それは何かといいますと、実は、全く今日の話と関係ないのですけれども、がん検診であります。実は、広島県では「安心な暮らしづくり」というのに取り組んでいると先ほど私のプレゼンテーションの中でも申し上げましたけれども、その中で、実は「がん対策日本一の実現」という挑戦をしております。このためには、早く見つけてしっかり直すということが非常に重要でありまして、そのための総合的な取組をしているのですけれども、この早く見つけるというための唯一の手段である検診を是非受けていただきたいと思っております。

がん検診は、会社に勤めていらっしゃるって健康診断があると、その中にごがん検診も含まれるのですけれども、自営業、あるいは主婦の方であると、自分で行かないと検診を受けることができないというものであります。

ちなみに、最近、がん検診というか、検診をされた方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。この5年ぐらい検診をされたことがないという方はいらっしゃいますか。何名かいらっしゃいます。正直ですね。今日約束してください。今から2カ月以内に行っていただけますでしょうか。ありがとうございます。是非いらっしゃっていただければと

思います。それぞれの市や町で検診をやっておりますので、そのタイミングにあわせて行っていただければと思います。

ちなみに、非常にいいことを申し上げます。安芸高田市と安芸太田町、そして、北広島町は、県内のほかの市町と比べますと、受診率は高いのです。ということでありまして、非常に意識が高い地域であるということは分かるのですが、是非、御自身だけではなくて、周りの皆さんにも呼びかけていただきまして、がん検診先進地域と言われるように、たくさんの方に受診いただきたいと思っておりますので、なにとぞよろしく願いいたします。

ということで、以上でございます。本日は本当にありがとうございました。どうもお疲れ様でございました。

(司 会)

以上をもちまして、「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を閉会いたします。御来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、御来場時にお渡ししたアンケートと、ひろしま未来チャレンジネットワークの申込書を出口で回収いたしますので、よろしく願いいたします。

本日は御参加をいただき、誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。